

自分が動くことで、環境が変えられる

■ まちの活動に参加しているきっかけは？

子どもが生まれ、流山に家を購入したのがきっかけです。実家では何度も引越しを経験し、社会人になってからもずっと賃貸住宅で生活をしていました。流山に来て、子どもはここで育っていくんだと考えた時、初めて自分のまちが出来た！と感じました。それなら、子どもが育つこのまちを自分で良くできないかと自然と思うようになりました。

■ 自治会で役員をされているとききました

身近なところからと考え、自治会役員をやってみることに。自営業の方や仕事を引退された方が平日にやっていて若者は入り辛そう…というイメージだったのですが、私の所属する自治会は役員のうち半分が40代以下の子育て中のサラリーマンでした。私が「平日働きながらだが、まちを良くしたいから役員やりたい」と主張した時も快く承諾して頂きました。

■ 流山市にはタウンミーティングがあるそうですね

はい。市長や部長クラスの方と直接協議できる機会があります。高齢者も若者もいろんな角度でどう地域をよくするかを考えていると感じます。私も毎回質問や意見を言っていますが、すぐに回答や対応策が返ってきます。市との距離は近く、声を上げれば自分次第でまちを変えていけるのだと体感しています。



1



2



3

1. 市内小学校で講師を務めた会計授業。
2. 子どもとは一緒に楽しむがモットー。
3. 江戸川河川敷で趣味のランニング。



すずき じゅんいち
鈴木 順一さん

鈴木さんってどんな人？
ランニングが趣味の鈴木さん。
本業の会計士のスキルで小学校で会計授業もしているようです。
(千代田)

自治会の役員会にて、様々な世代で構成される役員会は毎回活発な議論が行われる。



かわだ あつこ
河田 安津子さん(姉・左)
わたなべ なおこ
渡部 直子さん(妹・右)

河田・渡部姉妹ってどんな人？
それぞれに自分の強みを活かし、
また引き立たせあいながらコラボ
している姿がほほえましいです。
(金子)

試食をしながら、河田さんの「Nagareyama Wine Club」と渡部さんの「ママの大事なノート」のコラボを企画。

“子育てしやすい”まちとは何か、を知れる

■ どうして姉妹で流山に移住をされたのですか？

(河田) 私たちは流山に引越す前はそれぞれ都心で暮らしていました。まずは姉の私が妊娠を機に、“都心から一番近い森のまち”というキャッチコピーに惹かれて流山に引越してきました。私たちは福島県の会津地方で育ったので、都心で働きながらも自然豊かな環境で子どもを育てられたら…と常々思っていました。1年後に妹も妊娠をし、私の生活を見聞きしていたので流山への移住を決めるのに時間はかからなかったようです。

■ 実際に引越してみても、子育てしやすいですか？

(河田) 出産後、しばらくは自宅に引き籠って育児本に頼りながら孤独に育児をしておりましたが、このままではだめだと市の広報を見て外に一歩踏み出しました。その後市の創業スクールにも参加し、今まで挑戦してみたかったけど諦めていた「ワインで人と人をつなぎ、笑顔をつくる」ということに子育てをしながら挑戦しています。

(渡部) 姉が子育てをしながらも自分らしく楽しんでいる姿を見て、私も創業スクールに通いました。創業スクールをきっかけに、今は会社員をしながら流山で家族向けのフリーペーパー「ママの大事なノート」を発行しています。子育てをしやすい、というよりは、子育てをしながら自分を大切に出来る場所が流山、と感じています。



1



3



1. (渡部) 第3回ちは起業家ビジネスプラン・コンペティションにて「ママの大事なノート」が表彰。
2. (河田・渡部) 流山市内の森の美術館の一周年記念パーティーにてワインのプロデュースも。
3. (河田) おうちで楽しめるワイン講座を開催。